

挑戦することの大切さ

「少年の主張」石巻地区大会で最優秀賞を受賞した「挑戦する勇気」（石巻市立稲井中学校 3 年 本田愛里奈）を紹介します（要約）。

「私にやらせてください」この一言で、私は学級委員長になりました。立候補するのに迷いはありませんでした。なぜなら、私には目標があったからです。「あいさつ日本一の学校」これは、私が通う学校の目標です。自分にも何かできないか、そう思い、まずは学級委員長になろうと考えました。それにもう一つ、優柔不断な自分をかえたいという思いもありました。とにかくこれは、私なりの覚悟を持った挑戦だったのです。

委員長としての最初の仕事は、学級委員会の体制づくり。さっそく先生から話し合いを進めるよう促され、黒板の前に立つ私。中央委員会が始まる時間までに終わらせなければなりません。何をするかは分かっています。しかし、喉の奥が詰まった感じがして声が出ない。チョークを持つ手が震えて字はぐちゃぐちゃ。そして、皆の戸惑う表情。ますます焦る私。気が付くと、中央委員会が始まる時間が過ぎていました。駆け足で話を締め、黒板を消していると、先生が声を掛けてくださいました。「はじめてにしては立派だったよ。期待しているから、これからもよろしくね」普段なら喜んで返事をするはずの言葉にも「はい・・・」と、一言絞り出すのが精一杯でした。「あいさつ日本一」の力になりたい、なんて思っていた私は、決まりきった内容の話し合いすらまとめることができなかつた。私はすっかり自信を失いました。「やめればよかった」家に帰って愚痴をこぼす私に母は「もうちょっとがんばってみたら？」と声をかけてくれました。いつもの弱気を振り払って考えてみました。確かに、まだ何も始まっていないのに諦めるわけにはいきません。次からどうすればいいんだろう。何度も自問自答しました。そうして迎えた次の委員会。自分の熱意が伝わるように、丁寧に、強く訴えかけました。すると、メンバー全員が賛成してくれて、次々と具体的な意見を出してくれたのです。

今、学級委員会は「あいさつ活性化プロジェクト」と題した、新しい活動に取り組んでいます。「あいさつ日本一」になるための大切な挑戦です。私は今まで、自信が持てずにチャンスを逃すことがよくありました。でも今回、勇気を出して挑戦したことで、自分の中で何かが変わったように思います。失敗するのが怖くなって、弱気になることもあるけれど、挑戦する勇気をもって、前に進んでいきたいです。

挑戦することは勇気のいることですが、自分を大きく成長させてくれます。『耕人塾』の実践活動「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1」でも自分の目標に挑戦してみませんか？

「奉仕活動を通じ元気もらう」

8 月 14 日 (土) 河北新報「声の交差点」尾形和雄さん（東松島市 77 歳）の記事を紹介します。「7 月のある日曜日、わが家に突然の来客があった。昨年 7 月から週 2 回、私は東松島市赤井南小でトイレ掃除と通学時の見守り活動のボランティアをしていた。その奉仕活動に対して学校の父母教師会が、感謝状を届けに来たのである。新型コロナウイルスの感染拡大で学校も業務過多となり、多忙な先生を手助けしようと、ボランティア活動を始めた。その活動が 6 月末で終了したのだ。（略）ボランティア活動を通じて、曇りのない純粋な児童の心に触れたことで、清々しい気持ちになった。『いつもトイレをきれいにしていただき、ありがとうございます』。ある男子児童に、こうお礼を言われ涙があふれたことも忘れられない。児童と交わしたあいさつでは心が温もり、元気をいただいた。（略）」

奉仕活動は、実践した方も、していただいた方も、どちらの心も温かくするのですね。

